

令和３年度第１回宗像市歴史的風致維持向上計画推進協議会 議事録

開催日時：令和３年４月１２日（月）１４：３０～１６：００

開催場所：宗像市役所本館３階 ３０４会議室

■出席者

委 員	出欠	委 員	出欠	委 員	出欠
黒瀬 重幸	出(リ)	土屋 潤	出(リ)	平松 秋子	出(リ)
○大方 優子	出(リ)	壹岐 貴寿	出(リ)	明永 好弘 (代理者 田上)	出(リ)
西谷 正	出	矢原 吉房	欠	松村 知樹	出(リ)
山野 善郎	出(リ)	田中 久美子	欠	石村 陽子	出

印は会長、○印は副会長 出(リ)はオンラインで参加

第１号議案 宗像市歴史的風致維持向上計画の進捗評価について

評価軸 -4「道路美装化事業」

(第１号議案書 宗像市-8)

田中委員

：カーブミラーは景観に配慮した色に塗り替えられたとのことだが、安全には配慮されているか。

➡ 良好な景観を形成するための道路付属施設整備に際しては、道路付属施設に係る各種基準に基づくなど、安全性を確保したうえで、施設の更新を行った。

評価軸 -7「歴史文化資産継承支援事業」

(第１号議案書 宗像市-11)

田中委員

：注連縄に限らず、藁製祭具の技術伝承はどの地域でも困難を抱えているが、どのような「支援」を行う予定か。

技術の伝承が困難になっている地域は、そもそも、上の世代から習う機会がなかったか、現在の作成者が特定の人たちだけになっており、周辺の人たちを巻き込めていないと考える。「支援」というよりは、コミュニティの中でどうしていくのがよいかを考える方が先ではないか。

➡ 令和３年度において、藁製祭具への興味を持ってもらうため、藁ないの技術保持者を招いた体験講座の開催や技術保持者の把握、技術伝承のための映像記録作成などの支援を検討している。

技術の伝承について、これまで組単位で数年に一度、担当していた注連縄づくりの輪番制を廃止し、地域全体で保存会を結成し、技術の伝承に努めている地域や、他地域から技術者を招いて習いながら行っている地域がある。また、公民館

で、正月用に飾る注連縄づくりを縄のなえる高齢者が子ども達に教えながら、技術の伝承に努めている地域もある。このような地域独自の取り組み事例を参考にするなど、技術伝承のあり方について、それぞれの地域とコミュニケーションを図りつつ、地域の意向を踏まえ、検討したい。

評価軸 -13「地域活性化支援事業」

(第1号議案書 宗像市-17)

田中委員

：空き店舗の利用にあたって、地元の人からの相談がどの程度あるか。

地元の人が出店したいと思うようなまちづくりを考えていかなければならないと考える。

➡ 令和2年度は2物件の新規出店に対し、支援している。その過程において、地元の方からの相談は3件あった。

また、地域の皆さんと連携・協力しながら、まちづくりを推進するため、まずは、売買や賃貸に係る情報提供のお願いや新規出店を支援する制度の周知に取り組んでいる。

評価軸 -1「住民の意識と観光振興」

(第1号議案書 宗像市-22)

山野委員

：全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大している中で、観光振興などに対して、様々な影響があったものと推察する。新型コロナウイルスという誰も経験したことがないこの状況を踏まえ、どのような対応をとったのか。また、コロナ後を見据えてどういう対応を取ろうと考えているか、その手法を新聞等で周知をはかるなどを検討するといったのではないか。

➡ 新型コロナウイルス感染症が拡大している現状を踏まえた中でも、祭礼や行事など地域における様々な活動が著しく衰退しないよう、インターネット配信を活用した「神奈備祭のパブリックビューイング」の実施、SNSを利用した情報発信、マスメディアに対する情報発信の依頼などを行った。

また、新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えた取り組みや周知方法について、検討したい。

黒瀬会長

：それでは、第1号議案の審議と採決に入る。

「原案どおりとし、特に意見なし」とする。